

教団新報

定 価 1部 144円 (本体 133円 千共 206円)
予約購読料 1年分 千共 5,150円
紙代のみ 3,600円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
URL http://uccj.org
発行人 長 崎 哲 夫
編集主筆 渡 邊 義 彦
印刷所 株式会社きかんし

2014 年度

教区総会報告

1

大阪

北海

九州

四国

京都

教団総会開催年、重要案件を審議



一新された三役による議事

信仰告白について採決せず

三役一新



大阪

ない」提案が出た。

礎理論は、余りにも内向き。

ており、以後、教団がこの

3役が一新された。

める議案を、39回教団総会

北、古邨莊八(高石)、大澤

大阪教区 第59回大阪教

「賛否、常置委員会付託の

の発言への質問も続いた。

伊藤副議長は、1人1人

の御心かもしれないと思っ

「教団沖縄宣教連帯金減

だが、今総会では、秋の39

谷誠(いずみ、鎌田英子玉

5、6両日、大阪女学院へ

「採決になじまないとなる

と、今後提案出来なくなる」

の問いに答えたが、「持ち帰

向井議長は「5月末に他

を辞任する」との発言を議

の沖縄教区支援を継続して

美(吹田)、鈴木恵美子(馬見

熱したのが、教区総会開会

動議を賛成多数で可決し

を悪化させたのは、伝道推

進室の沖縄伝道応援」教会

選出でなく、推薦議員で教

団総会議員となり、常議員

に選出された人が27人中5

修(千里丘)、平田和子(吐田

礼拝、准允式・按手礼式で

教団信仰告白を全文、告白

言者が続いたのが、教団問

安使・伊藤瑞男・教団副議

がこれの良いのか「東日本

の教会もこの問題への真

「北村慈郎教師の「免職処

則(阿倍野)、齋藤成二(大阪

する」議案だった。

「教団信仰告白は信仰の

根幹。すべての教会に求め

長への活発な質疑だった。

質問者は12人。改訂宣教基

餐の在り方の議論の場を求

東十三、林邦夫(大阪城

郷、星野晴彦(和歌山)

然」との意見に、向井希夫

議長は、「今総会の准允式

も、教団信仰告白に則って

行われており、開会礼拝で

行わなかったのは、対立か

ら10年間、総会が開けず、

大阪教区の3号精神の生ま

れた歴史の反映」と議論が

噛み合わず、並行線を辿る

中で、「強行すれば、分裂

しなくなる。議案は採決

にそぐわないので、採決し

【教職】佐藤幹雄(岩見沢)、

原和人(手稲はこぶね)

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【教職】小豆真人(東梅田)、

上地武(大正めぐみ)、小笠

原純(高槻日吉台)、平井文

則(阿倍野)、齋藤成二(大阪

東十三、林邦夫(大阪城

郷、星野晴彦(和歌山)

【信徒】安田信天(高槻)、東

谷誠(いずみ、鎌田英子玉

【教職】久世そらち(札幌

北部、原和人(手稲はこ

ぶね、西岡昌一郎(旭川

六条、佐藤幹雄(岩見沢)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、

【信徒】稲垣正策(函館千

歳、佐久間光昭(置戸)、



左より日向幹事、西岡副議長、
久世議長、ト部書記

「教団に対する態度表明」僅差可決

九州教区

5月6日、九州キリスト教会館を会場に、第64回九州教区定期総会が開催された。開会時の議員数は231名中175名。開会礼拝が捧げられ、議長、常置委員会の各報告の後、准允式が執り行われ、4名の教師が立てられた。その後、各議案の議論がなされた。議案『伝道資金』制度の更なる検討を求める件。総会前日に行われた議員研修会においてこの議案の前提となる議論がされたのであるが、具体的には、この構想が実現したならば、九州教区のみならず、財政面での負担の増加や予算の見通しが立たない等の混乱が生じる教区が複数出ることが予想され、よって、第39回総会への提案の見送りを、常議員会に要請する

ものである。議場では、議案に賛成の意見の他、必ずしも議案にあるような負担増や混乱が生じるわけではないといった意見が聞かれたが、賛成多数で承認された。

「日本基督教団の現況に對する九州教区の態度表明に関する件」。この議案は、前年の教区総会に提出された。常置委員会付託となつた議案の改訂版ともいえる議案である。内容は、第33回教団総会以降の日本基督教団の現況について、「或る一部の『歴史的特質』が他のそれを侵し、屈服せしめ、或るいは排除して全体を制圧し統制するという教団の現況」と厳しく指摘し、このような教団への服従を拒否し、天々の地やそこに立つ教会の『歴史的特質』を尊重し、互いに支え合い、

等しく歩む道を求め続ける」と表明している。議案の指摘が多くあり、それに対して、このような表明をすることに躊躇をするという意見もあった。採決の結果、164中賛成87という僅差で議案を可決した。議長は、「この採決の結果を畏れを持って受け止め、この議案の今後の扱いは慎重

にしたいてコメントした。『改訂宣教基礎理論』草案の撤回を求める件。現段階で作成された草案の白紙撤回と、今後豊かな議論を求める議案である。改訂宣教基礎理論の早急な作成手続きに對して批判の意見が多く出され、賛成多数でこの議案は可決した。その他「教会種別変更に関する件」「沖縄教区規則変

更に關する件」「神が創造された世界に生きる者として、原子力発電所の移動に反対し、新しい生き方を志す件」「九州教区の教会および付属施設における『元号』の不使用に関する件」「川内原子力発電所1号機と2号機の再稼動に反対する件」等が賛成多数で可決された。

【教職】川畑馨 佐世保、浅野直人（福岡警固）、島田晋（大分吏、伊津見七生子（若松浜ノ町）、松山萌子（武蔵ヶ丘、東隆義（田川、今村泰子（長崎銀屋町、園眞實（国分、中松禎夫（鹿児島加治屋町）、志満秀武（福岡中部、湯元睦美（中津）

【信徒】小島誠志（久万）、黒田若雄（高知）、寺島謙（山城東、芦名弘道（近永）、黒田道郎（石井、篠浦千史（さや）、矢野敬太（愛南）、上島一高（今治、堀眞知子（瀬戸キリスト）

【信徒】長島恵子（鴨島兄弟、近藤康夫（新居浜西区副議長が説教、主がみわら、遊口百合子（西条栄光、竹村徳子（高知）、安宅登代子（石井、西村大吉（久万、木俣努（香川豊島、土居宣悟（丸亀、柏原伸行（潮江）

（松本のぞみ報）

互助検討委、中間報告を巡り協議

四国教区

第72回四国教区総会は4月29、30日、琴参閣を会場として開催された。開会礼拝では野村義和牧師（香美）が説教、聖餐式が小島誠志牧師（久万）の司式により執り行われた。開会時出席正議員は154名中125名。議事冒頭で「議長メッセ

ージ」が扱われ、芦名弘道教区議長は「四国教区の特質は『教区は各個教会を支える主体』にあわされる。福音がどこで前進するか。各個教会の伝道である。教区は各個教会の意志を尊重し、生かし、支え、用いられるよう、評価、課題、指し、互いの教会を覚え合う金とは各個教会の主体性、教

「これからの四国教区の伝道を考える」と題し協議会を開催。芦名教区議長より互助検討小委員会中間報告として「互助使途拡大（開拓伝道への摘要の可能性）及び「互助基準の設置」について述べられ、近藤康夫氏（新居浜西部教会員）より「伝道、互助と自立連帯献金に関するアンケートの

「このからの四国教区の伝道を考える」と題し協議会を開催。芦名教区議長より互助検討小委員会中間報告として「互助使途拡大（開拓伝道への摘要の可能性）及び「互助基準の設置」について述べられ、近藤康夫氏（新居浜西部教会員）より「伝道、互助と自立連帯献金に関するアンケートの

集約」が報告された。「なぜ使途拡大なのか。今の教会には幻が見えないというように聞かえる」「複数の教会と共に味わう伝道の喜びがある。自分たちと同じ教会が拠点として生まれることにより、教会一つ一つのかけがえのなき、それが増え続けることに幻がある」「自立連帯献金の教会予算

を満たす意識を変える必要がある。牧師ではなく信徒が伝えたら意識が変わるのではないか」等活発な意見交換がなされた。

2日目朝に准允式が執行され、主の委託に応えるべく補教師2名が新たに立てられた。その後、伊藤瑞男教団副議長が説教、主がみわら、遊口百合子（西条栄光、竹村徳子（高知）、安宅登代子（石井、西村大吉（久万、木俣努（香川豊島、土居宣悟（丸亀、柏原伸行（潮江）

【信徒】長島恵子（鴨島兄弟、近藤康夫（新居浜西区副議長が説教、主がみわら、遊口百合子（西条栄光、竹村徳子（高知）、安宅登代子（石井、西村大吉（久万、木俣努（香川豊島、土居宣悟（丸亀、柏原伸行（潮江）

（松本のぞみ報）

教団議長、陪席者として出席

京都教区

第78回総会を5月5日、6日、京都教会にて開催。1.「たわりと見通し」教団問安使を拒否し、對話の無いまま、11年が過ぎた。今教区総会を開催するにあたり、教団執行部と京都教区がどのような関係を作りだせるか、話し合いを続けたが、結果としては、問安使という位置づけではなく、協議会を開催し、要請

陪席者として総会へ陪席して頂いた。石橋秀雄教団議長には3点にわたる質問を事前にし、この回答をもつて協議をした。昨年7月に開催の常置委員会にて、教団議長の陪席をお願いし、協議の時間を持ち、そしてこの総会において2度目の協議となったが、溝を埋めると言うよりは、溝を確認するということとなった。

現教団執行部は、特に山北宣久前議長の「荒野の40年」という総括をして以降、ここ4年余りの歩みは、急速に教団宣教体制の改変を進め、教区間の溝を深め掘りつつある。その改変の策が、伝道推進室の設置と伝道資金構想、改訂宣教基礎理論と言える。見通すことのできない教勢の回復を垂直的な方法でもって対応しようとする、それは時によ

つては良しとされるのであるが、現状では現場と隔絶した施策が練られ作られようとしている。

3.「教団総会へ向けた議案」今回、教団総会・常議員会へ向けた議案が3点提案された。

（1）京都教区提案の「改定宗教法人法再改定を求める要望書」に、今教団総会の名による賛同・署名を求める

4.「教区の展望」今回、教区議案のひとつ

【教職】入治彦（京都）、井上勇一（洛南、望月修治（同志社、横田明典（近江金田）、今井牧夫（京北）、

（井上勇一報）

共に祈り、支えよう！
Let us pray for and support people and the Church together!

「東日本大震災救援募金のお願い」

教会の再建・補修、地域の復興・支援に向けての具体的な取り組みを日本基督教団として支援していくため、祈りと共に「東日本大震災救援募金」にご協力を下さいますよう、お願い申し上げます。

2014年6月

教団救援対策本部長 石橋秀雄

目標額 10億円（国内のみ）

期間 2011年7月1日～2015年3月31日

振替番号 00110-6-639331

加入者名 日本基督教団東日本大震災救援募金

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-31



上、ベーツチャペル
下、聖書科の授業風景(中央筆者)

教務教師 神学教師からの声

御言葉の種を蒔き続ける

福万 広信

(関西学院初等部宗教主事)

よしもキリスト教主義教育の土台でありいのちである。この朝の礼拝は1年間に約200回、子どもたちは小学校6年間で約1200

初等部の一日は礼拝から始まる。毎朝、全校児童と教職員がチャペルに集い、讃美と祈りをささげ、聖書の御言葉に耳を傾ける。この朝の礼拝の積み重ねこそが、何

ある子どもが卒業式前に書いてくれた手紙の中に次のような言葉があった。『先生はチャペルや聖書の時間を通して、直接わたしに語りかけてくれるような気がいつもしていました。根元の話は、いつも同じだったからです。神様は決してあなたを一人にしないよ。でもその前に、そうして心に響く話をいつもしてくださる先生が決して私を一人にはしませんでした。とてもあたたかく、そして穏やかでした。』

この子どももまた、悩みの中にあった。その子が卒業の前にこのような言葉で自分の思いを手紙に書いてくれたことが嬉しかった。そして同時に御言葉の種を蒔き続けることの意味を改めて感じた瞬間でもあった。

今日も明日も、ゆるさる限り愛を込めて子どもたちの心に御言葉の種を蒔き続けていきたいと思う。それが神が私に与えてくださった使命であると信じて。

日本基督教団の教師となり、今年で23年。教会担任教師として15年、そして現在、教務教師として8年目の歩みをしている。

私が今、宗教主事として働いているのは、関西学院初等部という小学校である。関西学院は1889年南メソジスト監督教会から派遣されたW・R・ランバス宣教師によって、伝道者の養成とキリスト教主義教育に基づいて青年に智徳を授けることを目的として創立された。現在では幼稚園から大学院までを有する総合学園となり、

今年9月に創立125周年を迎える。

この関西学院の伝統を受け継ぎ、建学の精神であるキリスト教主義を教育の土台とする初等教育機関として、2008年4月に開校されたのが関西学院初等部である。全校児童540名がこの学校で学んでいる。

関西学院の建学の精神としてのキリスト教主義は、第4代院長であるC・J・L・ベーツ宣教師によって提唱されたスクールモットー「Mastery for Services」の中によく表されている。この言葉を初等部では、「社会と人のために自らを鍛える」という意味で子どもたちに伝え、聖書の教えと共に「社会と他者に仕える」生き方の中にこそ、本当の生きる道があることを様々な教育活動を通して伝えている。

ある子どもが卒業式前に書いてくれた手紙の中に次のような言葉があった。『先生はチャペルや聖書の時間を通して、直接わたしに語りかけてくれるような気がいつもしていました。根元の話は、いつも同じだったからです。神様は決してあなたを一人にしないよ。でもその前に、そうして心に響く話をいつもしてくださる先生が決して私を一人にはしませんでした。とてもあたたかく、そして穏やかでした。』

伝道推進室主催 「主にある命を喜ぶ集い」

年長者のための集いを準備してほしい！ そのように要望する多くの声を頂いて、伝道推進室は65歳以上の高齢者の集いとして「主にある命を喜ぶ集い」を企画した。この集いには『これからの人生を喜び楽しむ』主にあつてゆつたりとした、という主題がつけられた。

第1回の集いは、3月31日、4月2日、この季節に桃の花が美しく咲き始める山梨県石和温泉において開催され、21教会から51名の教職・信徒の参加者があった。東海教区や首都圏の諸教会のほか、遠くは西中国教区の教会からの参加者もあった。

信仰の養いとしての講演は2回もたれた。初日の午後、小島誠志牧師(元教団議長・久万教会)は、『老いてから生まれる』と題する講演で、創世記12章からアブラハムの信仰についてじっくりと説いた。2日目の午前、石橋秀雄牧師(教団議長・伝道推進室長・越谷教会)は、『笑って、笑って、伝道を楽しむ』と題する講演で、一同を腹話術による笑いに満ちし、伝道の喜びへと招いた。

初日の夜、日下部教会信徒の矢澤孝樹兄に讃美歌の解説を頂きつつ、讃美の時をもった。全ての曲目は参加者の愛唱讃美歌から選ばれたものであった。

2日目の夜は、福音歌手の森祐理さんをゲストに迎え、その美しい歌声と素晴らしい証しに、一同の心は深く癒され、主にある平安に満ち溢れる時とされた。

その他、2日目と3日目の早天礼拝で、静岡草深教会の新庄多鶴子姉、津示路教会の道家良枝姉から信仰の証しを聴くことができた。

また、2日目の講演後には桃の花ツアーにのっけ、野外で手作りのほうとうをごちそうになった。日下部教会の矢野俊介牧師(現地協力委員)と教会員の方々のご奉仕によるもので本当に心に残る食卓となった。



三日間、天候にも恵まれて、参加者に喜ばれる集会となり、また参加したいという多くの声を頂いた。今後も、高齢者伝道のさきまをなかに模索しつつ、伝道推進室としての取り組みを進めていきたいと願っている。

(岩田昌路報)



宮越 光さん

受け手から与え手へ



1972年千葉県出身。社会福祉法人ピスティスの会放課後児童クラブ施設長。松戸教会員。

が、やはり中高生のリーダーとしての働き場で若い世代と接する機会が起ったときにはその問題解決に真正面から向き合っただけだ。礼拝の司式の最中突然倒れ、そのまま天に召された。教会に命を捧げる、父親の姿はまさにそれそのものだ。

母親と共に、自分に信仰を継承してくれた父親はすでに天に召されている。牧師を支え、教会で問題が起ったときにはその問題解決に真正面から向き合っただけだ。礼拝の司式の最中突然倒れ、そのまま天に召された。教会に命を捧げる、父親の姿はまさにそれそのものだ。

中高生時代、同世代の仲間が教会に溢れていた。支区の修養会となる、その数はさらに膨れ上がった。若い自分たちを束ねる一世代上のリーダーの影響は大きく、いつか自分もそのような立場に置かれるのだろうかとは容易に想像できた。実際その年齢になってみると、付かず離れずの礼拝生活になるのだ。

父親の死後、都合15年、教会の役員の仕事をしている。保育園での働きもそれなりの年数が経っている。

東日本大震災国際会議が去る3月11・14日に予定通り行われまして、この会議の終わりにアンケートを配布、会議への感想と意見を問いました。その回答の中からポイントを拾ってみました。

- 被災地仙台で国際会議がもたらしたことに大きな意義を感じた。
- これまで参加した中で最もよく準備された国際会議でした。
- 多言語会議の難しさに、終始よく対応されていました。この会議の重要な成果を私の国の教会生活や神学的省察に向けて、紹介したい。

国際会議を終えて

世論の形成ができることを願う。この他、質疑とグループ討論の時間が不足していた、国内他教派の人たちの参加が少なかったのは、との指摘もありましたが、総じて、よい評価がほとんどでした。国際会議を終えた後、4月にス・テートメント(宣言文)を決定し、内外に発表しました。これも会議への評価の大きなポイントとなると思います。

正直、国際会議を終えて、ほっとしていますが、これだけのことができたということは教団の力となったと強く感じます。また、これは、神の導きのもと、関係者すべてが賜物を生かし、協力、一致したことによります。感謝のほかにありません。

(教団総会副議長 伊藤瑞男)